

皆様、故棚瀬一代の葬儀にご参列いただきありがとうございました。

【遺影に向かって】

一代、今日、一代とのお別れに、大勢の人が来てくれました。
来られなかった人からも、たくさん、お悔やみの言葉をいただきました。

子どもたちのお別れの言葉も聞いたと思います。
みんな、一代のおかげで、お母さん思いの優しい子に育ちました。
私も、子どもたちも、一代がいなくなって、たまらなく悲しいけれど、力を合わせて、しっかり生きていきます。

悔いが残るのは、一度も、きちんとお別れができなかったことです。
一代は、いつも快活な声で、笑顔を絶やさなかったし、私も、そんな一代を励ましたくて、「一代ちゃん」とふざけて呼び、わけもなく、お互い、顔を見合わせて、にっこり笑っていました。
一代が死ぬなんて、考えたくなかったから、一代のことだから、きっと持ちこたえるのではないかと、馬鹿みたいに思っていました。

でも、亡くなる最後の夜、一代が、肩であえいで、意識も失われかけているとき、私が、耳元で、「一代、僕だよ、僕だよ、分かる？」と声をかけたとき、一代は、大きく2回、うなづきました。
一代の気持ちも、そして、私の気持ちも、それで、すべて伝わりました。
それが、最後の別れとなりました。

あと、何年かして、私もこの世とお別れをしたら、一代ともう一度会いたい。
そして、もう二度と悲しい別れをしたくない。
それまで、待っていて下さい。

【参列者に向かって】

本日はありがとうございました。